

環境に配慮したワサビの総合的作物管理システム

ワサビの生産現場では、近年、軟腐病やアオムシ、アブラムシ類などの病害虫の発生が多く、有効な防除技術の開発が求められています。しかし、ワサビでは適用農薬が少なく、また、水系への影響の懸念からその取り組みは進んでいませんでした。そこで、静岡県農林技術研究所では、静岡大学、長野・岩手・島根県の試験研究機関、及び生産者団体である全国わさび生産者協議会と共同で、従来の農薬による化学的防除法に耕種的・物理的防除法と生物的防除法を組み合わせたワサビ病害虫の総合防除法の開発に取り組み、水系環境に配慮したワサビの総合的管理体系を開発しましたので、その概要について紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. 育苗期：充実した種子を低温処理した後播種します。培土は保水力と排水性の優れたものが適し、病害虫の心配のないものを使用します。育苗施設には1mm目合いの防虫ネットを設置し害虫の侵入を防ぎます。播種後90日で本圃（ワサビ田）へ定植します。夏期などの高温期に育苗する場合は、湧水の得られるを林地内に育苗施設を設置し、施設の床全体に湧水が流れるよう整備します。施設内に高設ベッドを置き、ワサビはプラグトレイで育苗します。
2. 育苗期に問題となる病害虫は、アブラムシ類、コナガ、うどんこ病、白さび病などで、病害虫が発生した場合は、所定の農薬の使用条件を厳守して防除します。
3. ワサビ田定植後：ワサビ田定植後は化学的防除がほとんどできないため、病害虫防除はパイプ栽培や防虫ネット展張などの耕種的・物理的防除法が中心になります。パイプ栽培はワサビを食害する水生害虫や重要病害である軟腐病に効果的で、直径・高さとも約8cmの塩化ビニル製のパイプをワサビ田に設置し、その中にワサビを定植・栽培します。防虫ネットは飛来性害虫の防除に効果的で、簡便な設置法として、トンネル栽培で使用するU字パイプを十文字に組んでワサビ田全体に多数設置し、その上を1mm目合いの防虫ネットで被覆します。
4. ワサビ田定植後に発生するアブラムシ類には天敵昆虫であるナミテントウやコレマンアブラバチの導入が効果的です。



写真1：パイプ栽培



写真2：防虫ネット栽培



写真3：アブラムシ類



写真4：軟腐病

☆ 活用面での留意点

1. 本防除技術の詳細は、「ワサビの総合的作物管理（ICM）マニュアル」として取り纏められています。各生産者の実情にあった防除対策を策定する上で参考にしてください。
2. 詳しいことは、静岡県農林技術研究所伊豆農業研究センターわさび研究拠点（TEL：0558-85-0047）へお問い合わせください。

（日本政策公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田勝弘）